

所属校種	校内研修（教科部会や学年会でも可）としてやってよかった（効果があった）事例を記入してください。
1. 小学校	校内の研究授業参観では、Googleのjamboardを利用して意見交換を行っている。授業の視点を参観中に書き込み、似た意見をグルーピングして意見交流を活発に行っている。自然と先生方が使う機会を増やし、児童に使わせる際の練習となっている。
1. 小学校	校内研修として、6月に全教員がGIGA端末を活用した授業公開を実施した。その後、部会に分かれて1学期のGIGA端末を活用した授業実践事例交流会を実施し、活用実践について交流することで、互いにアイデアを共有することができた。
1. 小学校	昨年の取り組みにより教職員のICT活用スキルが高まり、日々の実践の中にChromebookを活用することが定着した。異動者・新任者に対して週一回程度短時間の研修を計画的に行ったことにより、1学期中に同程度のスキルを身に付けることができた。
1. 小学校	校内研修として、職員会議後の5分程度の時間を使い、授業者が効果的だと感じた授業実践の報告を行った。各学年でも様々な実践を行った中から、「どの学年でも活用できるかもしれない」という視点で提案をしてもらった。報告を聞いた他の先生方からも「活用してみよう」という意見も多く、実践報告の意義を感じた。また、報告資料の元版を作成し簡単にまとめたものを報告してもらったことも報告者の負担を減らすことにつながったと感じている。
1. 小学校	各学年の情報担当と連携し、各学年の実施状況・活用方法を情報収集し共有した。他の学年・教科で活用できそうな事例を共有することによって無理のない活用を目指した。また、GIGA研と称し各学年1回研究授業を行った。児童が実際にChromebookを活用する様子を教師が見ることによって活用方法を教師も学び、自分たちの活用につなげていくことができた。
1. 小学校	前年度から、学期末にGIGAタブレットを活用した実践を各学年が紹介する場を設けた。その中で次の学期に向けてどんなことを取り組みたいかも学年で相談する時間を作った。結果として、他学年の様々な教科のタブレット活用を参考にでき、授業でGIGAタブレットを活用する場面が学校全体で増えた。
1. 小学校	Chromebookを活用する授業の事前研を全職員で行った。ジャムボードで出来ることを体験することができただけでなく、その授業のねらい達成のために必要かどうか、説明するために有効なのかなど、手段を目的化しない視点での話し合いとなり、本校の学校規模における有効性のある使い方について、全職員で考える場にもなった。
1. 小学校	月に1回、学年会の際にICTを活用した実践を実践記録一覧に打ち込んでもらっている。他の学年の活用方法が確認できる良さと、今年度の活用の足跡が来年度の道標になるという良さがある。
1. 小学校	全教員が、ICT活用授業予定表を毎週作成（更新）し、端末を使った授業を積極的に公開するようにした。端末を使う目的を明確にするようにした。（個別or協働）
1. 小学校	学校研究の推進では、「端末を使った実践をWebページにアップすること」「会議の議事録を端末で記録しフィードバックすること」で速やかな情報共有を図ったり、共通実践を進めたりできるようになった。業務改善の推進では、「管理運営計画を基にした共有フォルダを整理」「ICTに関する研修の実施」により、時間短縮を図り効率的に業務することができるようになってきた。
1. 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに本校のクロームブックのルールや使い方を教職員全員で確認した。児童対象に行う各種アンケート調査や端末の持ち帰りをスムーズに行うことができ、手間と時間をかけずに教育活動に生かすことができています。</li> <li>・夏季休業中にジャムボードを使って1学期の振り返りを行った。端末を活用した場面を想起し、成果と課題、改善策を交流することで学年部ごとにアイデアを出し合ったことで、2学期以降どんな場面で活用できそうか見通しをもつことができた。</li> </ul>
1. 小学校	4月当初に今年度のルールを確認した。全校集会で児童に伝えることで学校内の共通理解につながった。校内研修として情報モラル教育について5月の研修で学んだことを全体に伝えた。「SNS東京ノート」を使い、指導の具体を伝えることができたので各学年で生かせるという反応があった。タブレット端末を用いた授業に関して効果的な事例や各学年どんなところで使っているかを話し合う機会が多くある。他学年の活用方法を知ることで自分の学年に生かせることはないか考えることができています。
1. 小学校	学校研究と関連させ、教科部会や全体研究会でICTを有効に活用した授業づくりの指導案検討や模擬授業、研究授業、反省会などで交流した。単元レベル、本時レベルでそれぞれ有効活用できる場面を、管理職を含めた複数人で検討できるため、効果があった。また、普段から職員室内でうまくいった事例やそうでなかった事例を交流したり、どのように活用できるかを交流しあったりすることで、教師の負担を軽減しながら活用の知識や技能を高めあうことができた。
1. 小学校	情報モラルについて演習を行ったことがよかった。推進リーダー研修で行ったカードを使った演習をジャムボードを活用し、職員で行った。ジャムボードの操作に慣れる目的と情報モラルについて考える目的があり、どちらも達成できたように感じた。演習中、職員が意見を交換し合ったり反応し合ったりする様子が見られた。
1. 小学校	メンチメーターやオクリンクなど、授業で利用できる機能の実践的な使い方を研修することで、取り組む先生方が増えた。また情報モラルや情報リテラシーに関して、推進リーダー研修で行った内容を還流、演習することで、先生方の意識も高まった。
1. 小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修として、職員会議後に一人ずつ実践を報告しあっている。効果的だったこと、上手いかなかったことを報告することで、他の学年でも活用のヒントとなった。</li> <li>・GIGAサポート課を活用し、国語（説明文）でのICTの使い方を教えていただいた。1年から6年まで、どの場面でどんなアプリを使用すればよいか分かった。</li> <li>・情報モラルについて、GIGA校内研修推進リーダーの研修で聞いたことを、広めたことで、子どもたちでも楽しく情報モラルを学べそうだという意見があった。</li> </ul>
1. 小学校	<p>【GIGA出前サポートを活用した出前講座】 講師の先生に来ていただき、実践的なICT活用法を学ぶことができた。11月にも招聘予定。</p> <p>【ICT支援員来校に合わせた公開授業】 授業内での日常的なICT活用について推進リーダーが公開授業を行い、職員間で情報を共有している。また、ICT支援員さんに授業のサポートをしていただきながら、他の先生だけでなく、学校の垣根を越えた情報共有を実現できている。</p>

所属校種	校内研修（教科部会や学年会でも可）としてやってよかった（効果があった）事例を記入してください。
1. 小学校	オクリンクを使った実践事例をICTサポーターに紹介してもらった。低学年、中学年、高学年向きに使える機能や科目について説明してもらった。他学年や他教科の実践事例を知ること、担任がクラスの実態に合わせて使うことができるようになった。
1. 小学校	学年ごとに目指すタブレットの活用スキルについてアプリごとにリスト化し、共有した。身に付ける内容が明確になり、学期ごとにチェックすることで指導の見通しをもてた。Teamsを活用し、教員間で実践の内容を気軽に投稿できるようにした。都合のよい時間に見ることができ、写真も一緒に投稿することで、わかりやすく、短時間で実践について共有できた。
1. 小学校	昨年度のデータベースをもとに、学年ごとに授業を振り返ってもらった。昨年度活用していたことを知ることで、どんなことができそうか把握することができ、見通しを持つことができた。また、各部会に情報担当者がいることで実践を全体で共有していきたいと思う。
1. 小学校	研究授業の指導案検討、授業後の整理会等では必ず「効果的な活用方法だったか」という視点をもって話し合うことができている。「効果的な活用」の定義は年度初めの研修会で共有済みなので、先生方によって大きくブレることはなく、授業実践に臨んでいると考える。また、学期ごとに授業実践報告会やGIGA担当による研修報告会を実施している。それぞれの先生方の知り得る活用方法を、他の学年でも取り組み、還元することができるようにしている。
1. 小学校	①職員会議の議件に、GIGA校内研修を毎回位置付けてもらった。各学年で情報共有をしたり、それを他学年にも広げたり、活用しやすいアプリなどの使い方研修をおこなった。昨年度は、やり方などを推進リーダー1人が行っていたが、2年目ということもあり、日常的に教え合いがなされ、昨年よりもいろいろな教科でタブレットを活用することができている。 ②全校集会や児童集会、委員会のイベントなど、必ず全校が使う場面や活用しているところを見てもらう場面を設定した。6年生が「これタブレットでもできるかも！」と先生方に提案する姿も見られた。子どもたちがやりたいといったことを、全校を巻き込んで行うことで、教員も協力的に活用できた。
1. 小学校	音楽づくりの場面で活用できる実践例をOJTで実際に先生方に体験してもらうことで、視覚化する良さ、作品の共有のしやすさなどGIGA端末機器のメリットに気づいてもらえた。まだ活用していないアプリの使用法の研修を実践を交えて行った。授業の中での活用のイメージが広がったようで、これからの活用に期待できる研修となった。その他、端末のトラブルの解決法を随時確認することで、先生方のトラブル解決スキルが高まってきている。
1. 小学校	学年会で1人1台端末を活用した授業について教材研究や実践、振り返りを行った。GIGA端末を利用して良かった点や改善すべき点を共有することで、次回に生かせる点や他学年に共有できる点を見つけることができた。
1. 小学校	校内研修として研究授業で1人1台端末を活用した授業を発表しました。実際に授業を観ることで本校での端末をどのように活用して授業するか具体的なイメージを持つことができました。また、整理会で効果的であった場面とそうでなかった場면을共有することで、1人1台端末の活用における共通理解をはかることができました。
1. 小学校	オンライン授業・会議の仕方について1学期中に研修できたことは非常時に備えられてよかった。早めの共通理解、技能向上が求められる内容であったため、計画的に実施できてよかった。高学年では、委員会やクラブで積極的に活用する姿（調べ活動や動画撮影など）が見られたのでとてもよかった。
1. 小学校	提案授業で1人1台端末を活用した授業実践を行った。先生方にとって端末は「使ってみたいが、ハードルが高い」というイメージが強い。具体的にこのような場面で、こんな使い方をすると、児童はどんな反応をするのかを客観的に見る機会は大切だったと感じる。その上で、先生方にも使っていただけるよう、本校ではスカイメニューの使い方を研修として行い、実践していただいている。推進リーダーとしてこれからも、授業での実践を見ていただき「自分にもできそう」、「自分ならこうする」という考えを持ってもらえるようにしていきたい。
1. 小学校	・朝や放課後の短い時間を使って教員同士の情報交換が常に行われている。機能の使い方であったり、授業の中での効果的な使い方だったり、ざっくばらんに話し合いが行われている。気軽に相談できる雰囲気職員室内にあるため、ICT活用に苦手意識を抱いている方も相談することができている。 ・校内の相互参観による授業交流や要請訪問の授業の中で確実にICT活用をするようにし、その手立てが有効であったか、意見を交流することでよりよい活用方法を吟味することができた。
1. 小学校	情報モラル教育のため、本校自作の情報モラルカリキュラムを作成し、系統的な指導ができるようにした。どんなことを指導するかがある程度ははっきりしたので、今年度試行しながら次年度以降につなげられるようにして、情報モラルの指導体制を確立させたい。
1. 小学校	低・高ブロックで、月に1回1人1台端末を活用した授業を交流した。成果や課題について伝え合うことで、「自分もやってみよう」という意識が高まった。また、1人1台端末を活用した授業を行った場合には、週案にiマークを記入してもらい、共有ドライブ上のスプレッドシートを用いて1週間ごとに集計を行った。今年度は、1学期の間、毎日1回以上1人1台端末を活用した授業を行うことを目標に取り組みしてもらった。自身の活用状況だけでなく、他学年の取組状況が分かり、意識付けに繋がった。また、活用場面が少ない学年にもすぐに気がつくことができ、推進リーダーやICTサポーターのフォローも行いやすかった。
1. 小学校	いつでも、どこからでも実践が共有できるように、各担任の実践を校内用に作成したGoogleサイトにUPした。写真と短い解説を添えることで、どのような実践なのか端的に伝えられた。月1回の情報交換でサイトを見合って話すことで、今後の授業実践に活かすヒントを得ることができた。
1. 小学校	毎週金曜日に設定されているミニ校内研修の時間帯で、月に1～2回GIGAに関する研修を行ったこと。オンライン登校の仕方や、TeamsなどMicrosoftアプリ、ミライシードを使った授業実践について共有することができた。夏休み期間中には、1学期の授業で効果的であったICT端末の使い方について共有する場を設けた。また、研究主任と連携しながら学校研究の共通実践とリンクしてICT端末の活用場面を焦点化したこと。さらに、先生方がどの教室に行っても同じ条件でICT端末を使えるように、教室環境を整備した。
1. 小学校	職員の授業力向上のために、県内のモデル校の授業動画を見て、ねらい達成につながるICT機器の使い方や教科の特性を生かした使用方法・場面などを協議する校内研修を設定した。若手からベテランまで多くの職員がいるため、お互いの得意分野を生かして授業観察や授業構想の力を向上できる取組となった。
1. 小学校	学年ごとに、どの教科でどんな取組をしたか記入していくことで、他学年の取組も知ることができる。また、担当している学年に活かすことができ、教員間での話し合いや、活用の幅が広がっている。